

まちづくり新聞 笛吹版

歴史と温泉とフルーツのまち

2020特集号 NO.8

発行:樋口滝人 ☎070-5565-4562

Mail: suihei-libe@eos.ocn.ne.jp

ハンガリー・ブダペストの セーチェニ温泉



城崎温泉【兵庫県豊岡市】は川沿いにある七つの外湯をめぐり、海の幸を堪能できる有数な温泉地



1. 石和温泉が^{きのさき}城崎温泉

(兵庫県) を超える日が来る

昨年度石和温泉付近に観光に来た客数は197万人に及びます。コロナ渦でも個々のホテル、旅館は誘客に大変な努力をされています。また、市でも1億1千万円をかけて宿泊客への割引サービスを9月末まで行っておりました。さらなる誘客には、まちづくりの観点から行政の目に見える具体的なインフラ整備が必要です。そこで、みんなの広場(旧NTT跡地)の一角あるいは現在の足湯広場を改築して「立ち寄りの湯」として集客を図り首都圏から近いメリットを生かし、リモートビジネスと温泉の融合を図る。石和温泉駅から国道20号線までは電線の地中化を実現、温泉街への動線上の歩道に石畳、駅前の足湯広場にはこんこんと湧出する温泉を演出する。等 官民一体となってアイデアを出し合い、実施することにより石和温泉の一層の発展が期待できます。下の写真にある兵庫県の城崎温泉は石和温泉と同じように川を挟んで両側に温泉街が立ち並ぶ、志賀直哉の小説でも有名な歴史のある名湯ですが、YOU TUBE フェイスブック、ツイッターなどのSNSを駆使して若者や海外からの多くの集客に成功しています。

2. 大学、専門学校、先端企業の誘致

甲府市には山梨大、山梨学院大、県立大など多くの大学、専門学校が。また、山梨市、甲州市にも大学や専門学校が設置され、次世代を担う若者の活躍が見られます。笛吹市にはこういった専門学校さえ誘致がされずに来た歴史があり、活性化が図れない一因にもなっています。そこで、先端技術習得のための専門学校など誘致し、固定資産税減免などの優遇措置をとって 全国からの若者が集って、活性化し、新しい産業創出の担い手として笛吹市から発信できることを期待したい。



3. スコレー近くに陸上競技場、サッカー場の設置を

笛吹川河川敷をロードレースのメッカに
笛吹市の6つの町にはサッカー、陸上競技会が開催できる施設が皆無です。そこで、スコレーセンター、石和中学校南、清流公園に隣接して小石和区内にウレタン舗装の陸上競技場と人口芝のサッカー場を整備したらいかがでしょうか。例えば富士川町のいきいきスポーツ公園は8レーンのウレタン舗装をした陸上競技場と一般用11人制サッカー場1面が整備されたすばらしい施設があります。同様な施設が出来たらいいな。また、笛吹市役所前の笛吹川河川敷のサイクリングロードを整備してロードレースのメッカにしたい。



6. 市指定ごみ袋代金を 10 枚 300 円から 150 円に

倉嶋前市長が制定した市指定可燃ごみ袋代金(手数料)の条例。今年は45ℓ入り袋が10枚で業者から仕入れる袋代と商工会及び小売り手数料を足しても原価は10枚で110円にしかありません。それを300円で売るなんて190円は市の歳入として税金のごとく市民から徴収しています。境川にある処理場を共有する甲府市、山梨市は150円、また甲州市では127円で販売しています。どおして、笛吹市民だけ高い袋を買わなければいけないのでしょうか。至急値下げのための条例改正をすべきです。提案してから1年余、やっと賛同者の皆様のおかげで条例改定で値下げされる可能性が出てきました。もう一步のところです。ご支援お願いいたします。



7. 区長報酬の減額

この件はタブー(禁句)ですか? 合併以降も市から区長に支払われる報酬に対して手を付ける様子がありません。笛吹市では区長が受け取る最高年額が100万円を超える区もあります、市が払う区長への年総額は3,670万円にのぼります。隣の山梨市では一律12万円、甲州市では最高額が32.7万円、甲斐市では最高額31万円と仕事の内容と役割に沿った報酬を払っています。笛吹市ではいかがでしょうか、区長は決してボランティアではと言いませんし、市からの報酬は当然ですが、いかにせん一般市民の感覚からしてもらいすぎの感がしますが、いかがでしょうか。



4. ふるさと納税の収入 2.5 億円を 6 億円に増やす

市役所では半年前に急遽、ふるさと納税の担当者を増員しましたが、効果が出ずに、令和 1 年度は 2.5 億円にとどまりました。隣の山梨市 7.3 億円、甲州市は 7.8 億円と人口は半分以下でありながら「ふるさと納税」は倍以上の収入があり、大きく水をあけられています。これは市が歳入増にコミット（一生懸命取り組むこと）をしなかった証左です。ちなみに富士吉田市は 30 億円以上の納税がありました。

あまたある国内市町村でも当市を選んでいただいた納税者の恩に報いるためにもオリジナリティーのある返礼品と笛吹市のイメージアップを図ることが増収への近道になります。

ご存じのとおり、当市は桃、ぶどう、柿などのフルーツ、ワイン、歴史、温泉など誇れるものがいっぱいのもちです。これらが全国の皆様にアピールできる工夫がほしいです。来年こそは 6 億円の目標で親戚友人、知人などに市民の皆様もふるさと納税をお願いしてください。官民一体となって増収に協力しましょう。コロナで税の減収が明白な来年こそふるさと納税の増収は要です。

5. 上下水道事業の広域化で水道料金維持

平成 30 年度に 24.7% の水道料金、20% の下水道料金をそれぞれ値上げしました。再来年からは平成 30 年度改定前に比べ 50%、44% へとそれぞれ公共料金が値上げされます。

今、市の一般会計から独立採算制をとる上下水道会計は赤字の連続です。しかしながら、現状では独立して運営できないので市の一般会計から大きな金額を補填して青息吐息の状態です。その赤字を補填するための値上げはこれからも続きます。再来年の値上げだけではとても収まりそうもありません。人口減少、ミネラルウォーターペットボトルの消費増、配管の老朽化、配管材の耐震化の推進等どれをとっても一般市民にさらに負担を強いることは明白です。

そこで、この値上がりの連鎖を断ち切るために山梨市、甲州市との広域連合で企業会計を推進すべき時期がきたと信じます。水を貯めておくタンクの共同化や職員の減員、料金徴収の集約化などを進めスケールメリットを十分利用してこの難局を乗り切るべく遅きに失していますが

早速、峡東上下水道広域協議会を設置して、対応されんことを提案します。

まちづくり新聞 2020 年 年末特集号

編集責任者： 樋口 滝人（ひぐちたきひと）

現在：まちの不動産 水平リーベ代表 宅地建物取引士

電話 070-5565-4562

mail:suihei-libe@eos.ocn.ne.jp